

しまなみだより

第13号 2019年10月発行



看護学科長

黒田寿美恵 教授

秋涼の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年4月、看護学科長に就任いたしました。

看護専門職の役割は、健康上の問題を抱えている人が自分らしく生活できるよう支援すること、そして、健康上の問題を予防したり現在の健康状態を維持・増進できるように生活を支援することにあります。看護するうえでは、その人を「生活者」として全人的に理解し、ニーズを的確に捉え、先を見通しながらその人のもつ力を最大限に活かした支援をする力が求められます。また、保健・医療・福祉関連の多様な職種の中で、看護の専門性に立脚して自らの考えを発信し、連携・協働する力が必要となります。

本学看護学科では、看護専門職に必要なこれらの力を獲得できるよう、シミュレータやICTが充実した環境の中で、アクティブ・ラーニングを取り入れながら少人数制のきめ細やかな教育を行っています。また、保健福祉学部にも所属している他の医療福祉系の学生と共に学ぶ科目も充実しており、価値観の多様性に触れながら学びの幅を広げることができます。さらに、本学には「学修支援アドバイザー」制度があり、多くの先輩学生が後輩の学修活動場面で様々な支援を行ってくれています。

卒業生が本学で看護学を学んだことに誇りをもって社会で活躍できるよう、県立広島大学の看護学科を一層発展させていきたいと考えています。保護者の皆さまのご理解・ご支援を引き続きよろしく願いいたします。

TOPICS 新入生 オリエンテーションセミナー

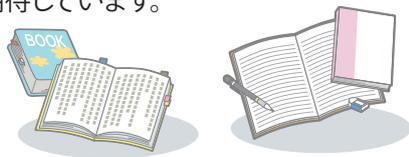


新入生にとって春は、大学生になった嬉しさや、これからへの希望を感じつつ、新しい環境への不安も感じる時期だと思います。例年、入学後のGW明けに、新入生オリエンテーションセミナー（オリゼミ）が開催され、三原キャンパス5学科の新入生と、学生自治会2年生、教職員が参加して、親睦を深めます。今年度のオリゼミは、広島県立びんご運動公園で開催されました。三原警察署による防犯対策の講義で生活上の注意点を学んだあとは、学科を超えて構成された班でバーベキューを楽しみます。最初はやや緊張気味ですが、上級生のリードで話が広がりはじめ、昼食後のレクリエーションの頃には、すっかり打ち解けゲームを楽しむ姿が見られるようになります。その姿をみながら、4年後、頼もしく成長した姿を見せてくれるんだろうな、と楽しみに思います。

(渡辺陽子)

1年生 看護学概論

この科目では、看護学の基本的な概念や看護理論について学びながら人間の健康や看護について考えを深めていきます。看護の歴史の変遷を学ぶプロジェクト学修では、古代から現代までの時代を分担し、文献等からその時代背景と看護について調べました。1か月前から準備し、独自の工夫を凝らした資料を完成させて授業に臨みました。担当年代のプレゼンテーションでは、時代ごとに特徴的な戦争や災害等の社会情勢を伝え、どのような人々の状況があったのか、またそれに対してどのような看護が必要とされてきたのか、資料を用いてわかりやすく説明していました。充実した資料や時間いっぱい熱弁する姿から、学修者としての成長が伺えました。看護がもたらす人々への意味とその奥深さを学び、人々の健やかな未来を担う人として成長することを期待しています。



(吉田和美)



講義外学修で作成された資料



発表している風景

2年生 診療に伴う看護方法論

2年生での専門基礎科目「診療に伴う看護方法論」についてご紹介します。「診療に伴う看護方法論」では、診療(診察・治療・検査)に伴う「安全」で「的確」な看護技術を修得し、対象者の心身に及ぼす影響を理解した上で看護の役割を考える力を修得することを目標にしています。

5月から6月にかけて、皮下注射、筋肉注射、静脈内注射、点滴静脈内注射、静脈血採血の演習を行いました。初めて実際の注射器や注射針を扱うということもあり、真剣な面持ちで演習に臨んでいました。神経や血管の走行を考慮して注射部位を選択し、「6R(患者氏名、実施日時、薬剤名、用量、用法、目的)の確認」を行い実施しました。初めのうちは注射器の持ち方や薬液の吸い上げに戸惑う様子もありましたが、回数を重ねるごとに確実に上達していきました。

(三宅由希子)



シミュレータをつけた皮下注射の演習



アンプルからの薬液の吸い上げ

3年生 看護倫理

今の医療現場では患者さんやご家族の権利をいかに守りながら医療や看護を提供するか、倫理的な問題への判断力や対応がとても重要となっています。この科目は、医療に関する倫理的な問題に看護職としてどう対処していくかを考える3年次前期の必修科目です。「看護倫理」と聞くと難しそうに感じる方も多いと思いますが、看護実習や卒後に遭遇することが想定される事例などできるだけ身近な例を取りあげながらグループワーク主体で学修しています。写真は「県大へ行こう」に参加してくれた高校生にグループワークと発表を体験してもらった場面です。「よい看護師とは?」についてラベルワークで意見をまとめ、徳の倫理について考えました。高校生の新鮮な意見と堂々とした発表の様子から3年生も大いに刺激を受けていました。皆さんが考える「よい看護師とは?」、機会があればぜひ一緒に考えてみましょう。

(松森直美)



発表の様子



グループワークの様子

4年生 在宅看護実習

在宅看護実習は、病気や障がいをかかえながら自宅やグループホーム等で暮らす人とその家族を対象に、暮らしの場で行われる多様な看護のあり方やその実践方法を学びます。専門領域実習で学んだ看護を、その人の暮らしを支えるための看護へと応用・展開していきます。今年度は、2～3名のグループに分かれ、県内の20か所の訪問介護ステーションで、5日間実習をしました。1回の訪問看護は60分間程度ですが、学生は訪問看護師と一緒にいる看護を通して、療養者や介護者との関係づくり、生活、その人の人生や価値観までも学びとります。さらには、「かかりつけ医」や「ケアマネジャー」等、多職種との連携や地域とのつながりの大切さへと視野を広げます。多様な看護が求められる今の時代、地域で暮らす人々のために柔軟に活躍できる看護職への成長を願っています。

(岡田麻里・安田千香)



胃ろう周辺の皮膚ケア



訪問看護利用者さんのお宅へ

オープンキャンパスを開催しました

2019年8月8日(木)にオープンキャンパスが行われ、看護学科の学生がボランティアとして協力してくれました。「学生による住民向け健康教育」や「学生プレゼンテーション」のコーナーでは、多くの高校生や保護者の前でプレゼンテーションをし、興味津々の高校生からの質問にも丁寧に答えていました。また、実習室では血圧測定や心肺蘇生など、看護ならではの体験を優しく説明し、高校生から憧れのまなざしを受けていました。

(伊藤良子・中垣和子)



心肺蘇生法の説明



聴診器の使い方の説明



新生児人形を用いた沐浴



大学での生活を発表している様子



保健師課程の学生による健康教育

教員の紹介 母性看護学 教授 日高陵好



母性看護学（リプロダクティブヘルス＝性と生殖の健康）が専門の^{ひだかりょうこ}日高陵好です。私はアメリカで看護と助産を学び、病院の産科で臨床経験を積んだ後帰国し、本学で教鞭をとり10年になります。看護学科内では国際交流委員として、これまでインドネシア看護学生の本学留学時のお世話、本学看護学生のキャンベラ大学（オーストラリア）への短期研修の引率、キャンベラ大学看護学生の本学への短期研修の企画・運営等を行いました。今年度は、キャンベラ大学から学生と先生方を12月にお迎えして、本学学生との交流会を行う予定です。楽しみにしててください。

さて、プライベートでは私はオンとオフをしっかりと区別するのが苦手で、ゆっくりオフタイムを楽しむことを忘れてストレスをため込んでしまいます。それで今は「週末に必ず大好きな洋画をみる」と決め、心の切り替えをするように心がけています。先日観た「ボヘミアンラプソディ」に感動して、懐かしいクイーンに再び聴き入っています。オンでは学生の皆さんに国内外の最新トピックを提供できるように常に努力を怠らないようにしていきたいと思っています。

卒業研究を学会で発表しました



毎年、卒業研究の成果を国内の学会で発表しています。平成30年度の卒業生は、日本看護研究学会で5名、日本看護研究学会中四国地方会で1名、日本看護技術学会で1名、日本医療マネジメント学会（鳥取支部）で2名が発表しました（9月現在）。

平成30年度卒業の瀧口琴葉さん(左)と前田恵里さん(右)



(吉田和美)

学生表彰



看護学科 3年生 田口 葵さん

県立広島大学では、学術研究活動や課外活動に積極的に取り組み、特に優れた業績を挙げた学生を対象に、学生表彰を行っています。今年度、看護学科では5名の学生が学業成績優秀者として表彰を受けました。今回は、そのうちの一人である、田口さんのコメントをご紹介します。

【田口 葵さん】今回、この学生表彰に選ばれて、今までの努力が無駄ではなかったと改めて感じる事ができました。大学で出される課題やテストは、授業の中で学んだことだけでなく、自己学修をすることが前提とされています。そのため、私は1年生の時からコツコツと自分なりに自己学修に励んできました。また、1人で行うことが難しい時には、友達と一緒に課題やテスト勉強をして、わからないところを教えあったりして学びを深めてきました。

3年生後期には、様々な領域での実習が多くあります。実習は、学内では学べないことを多く学べる場であると同時に、課題や自己学修がさらに多くなってきます。不安な気持ちでいっぱいですが、今までのように周りの友達と切磋琢磨し、頑張っていきたいと思っています。

看護学科「学生生活通信」についてご意見、ご感想などお寄せ下さい。

〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
TEL: 0848-60-1120 (代表) FAX: 0848-60-1134 (代表)
E-mail: nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursinq/>
発行: 県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報係

